児童人口推計値との比較（実績報告該当ページ：p1～2）

年度		推計値	実数	差（実数－推計）
Ｒ７	総計	4,284	4,239	▲45
	０歳	272	245	▲27
	１歳	307	308	+1
	２歳	295	298	+3
	３歳	344	334	▲10
	４歳	329	322	▲7
	５歳	324	330	▲6
	０～５歳	1,871	1,837	▲34
	６歳	406	398	▲8
	７歳	381	379	▲2
	８歳	368	376	+8
	９歳	399	400	+1
	１０歳	429	428	▲1
	１１歳	430	421	▲9
	６～１１歳	2,413	2,402	▲11
Ｒ８	総計	4,224	4,100	▲124
	０歳	288	234	▲54
	１歳	293	265	▲28
	２歳	307	312	+5
	３歳	315	309	▲6
	４歳	353	338	▲15
	５歳	336	330	▲6
	０～５歳	1,892	1,788	▲104
	６歳	334	329	▲5
	７歳	409	392	▲17
	８歳	375	372	▲3
	９歳	370	386	+16
	１０歳	403	409	+6
	１１歳	441	424	▲17
	６～１１歳	2,332	2,312	▲20

１　児童人口分析結果

⑴　０歳児（出生数）の急減

Ｒ８年の０歳児実数は234人で、推計値（288人）を▲54人下回っており、出生数の落ち込みが推計モデルを超えて進行しています。

⑵　就学前児童（０～５歳）の乖離拡大

Ｒ７年は推計比▲34人（1,837人）、Ｒ８年は推計比▲104人（1,788人）と乖離が急速に拡大しています。

⑶　小学生（６～11歳）も下振れ傾向

Ｒ８年の小学生実数は2,312人で推計値2,332人より▲20人となっており、小学生においても実数が推計を下回る状況が続いています。

２　今後の対応（課題）

両年度とも推移値と実数で乖離が生じているが、保育施設や学童保育事業等の各事業での利用者が、人口と同様に大幅に減っているというような現状は見られません。

人口推移だけでなく、各家庭の形の変化や働き方の多様化など実情も含め、定員の見直しが必要な事業がないか検討する必要があります。